

募集

「堺区ふれあいまつり」

協カグループ募集 !!

堺区さかいボランティア連絡会では、平成 26 年 11 月 16 日（日）に行われる堺区ふれあいまつりで社協堺区事務所のブースにてボランティア啓発活動を行います。このブースにて、ボランティア活動の楽しさを一緒に伝えてくれるグループを募集します。

【申込み・お問い合わせは、社協堺区事務所まで。】



(平成 25 年度の様子)

堺区ボランティア募集中 !!

7月現在

市立堺病院ボランティアグループもず

再診受付機の操作案内など

活動日	平日(月 1~4 回程度)
時間	9:00~11:00
場所	堺区南安井町

配食サービスボランティア「かけはし」

高齢者・障がい者の為の弁当の調理/配達

活動日	月・水
時間	調理 9~14 時頃 / 配達 13~15 時頃
場所	堺区老松町

にほんご堺東

外国人に対する日本語指導

活動日	毎週水曜日
時間	10:00~12:00
場所	堺区南瓦町

<お問合せ先>

堺市社会福祉協議会 堺区事務所
ボランティア相談コーナー
(堺市役所本館 3 階)

TEL : 072-226-2987 FAX : 072-226-1952
E-mail : sakai@sakai-syakyo.net

お知らせ

堺タカシマヤ 9 階に

「キッズサポートセンターさかい」誕生

平成 26 年 4 月、堺東駅前の堺タカシマヤ 9 階に、遊び・集い・交流・相談できる子育て支援施設「キッズサポートセンターさかい」がオープンしました。

同センターは、堺市・高島屋・ポーネルド・大阪労働局の 4 者で締結した子育て支援のための連携協定に基づき、公民の共同で運営している施設で、子育て家庭が無料で利用できる「堺市つどい・交流のひろば」や、世界中から厳選した遊び道具で楽しめる「ポーネルドあそびのせかい」、子育て応援をテーマとしたさまざまなイベントを開催する「タカシマヤわくわくプレイス」の 3 つのゾーンがあります。

堺市では今後とも、ボランティア活動者はじめ市民の皆様のご理解・ご協力をいただきながら、子育て支援施策のより一層の充実を図っていきたいと考えておられるそうです。



堺区ボランティア連絡会

つ・な・が・る

第 1 号
2014.7



発行・編集

堺区さかいボランティア連絡会

(事務局：堺市社会福祉協議会 堺区事務所)

〒590-0078 堺市堺区南瓦町 3-1 (堺市役所本館 3 階)

TEL : 072-226-2987 FAX : 072-226-1952

E-mail : sakai@sakai-syakyo.net



ボランティアと図書館の協働で 「堺市図書館まつり」開催!

5 月 11 日(日)堺市立中央図書館で図書館まつりが開催されました。市内の図書館で活動する 12 のボランティアグループが実行委員として参加し、読み聞かせ、おはなし、人形劇、えほん広場、あそび広場を担当しました。子どもも大人も図書館ライフを楽しんだ一日でした。
堺区の「堺市子ども文庫連絡会」「人形劇団シャボン玉」は、毎年おまつりで活躍をしています。
(上記 2 グループの紹介は、2 ページ目)

堺区ボランティア連絡会「つながる」発行よせて

堺区内には、地域・施設・病院関係、障がい者・高齢者・児童対象、趣味・特技などのボランティア活動が広がっています。

それぞれのグループが社会とつながって活動している様子を伝えると共に、ますますつながりの輪を大きくしつつボランティア活動が発展・充実することを願って「つながる」を発行します。取材、編集は堺区ボランティア連絡会役員が担います。



大きくなった

子どもと出会うのが楽しみ

堺市子ども文庫連絡会

子ども文庫は、三十数年前から自宅を開放したり、地区の集会所、市内の図書館などで地域の子もたちに本の貸し出し、読み聞かせ、お話し会、手づくりなどをしながら、子どもたちに本の面白さを伝えています。

図書館まつりでの手づくりコーナーでは絵本をベースにした紙飛行機などの作成方法を教え、手作りの楽しみを体験しながら、本に興味を持ってもらうように工夫しています。

子育て中の父母にも、本を通じて子どもとのふれあいの場をいかに増やしていくかなどを伝えています。

活動の喜びは、子どもたちが大きくなって訪ねてきてくれたりすることです。料理の本が大好きで将来はコックさんになりたいと言っていた子どもが夢を実現したと聞き、とても嬉しかったそうです。

連絡会には、4箇所の子ども文庫のグループが入っていますが、会員間で情報交換をしたり、講習会を開いて、毎回子どもたちに内容を変えて伝えられるように取り組んでいます。

長年の活動で集まった結果として、多くの本や資料などの保管場所に苦慮しておられます。なにかいい知恵がないでしょうか。

最近では自宅に子どもを集めて活動するには限界が出てきたので、活動を広げるためにも、社協などの働きかけで地域のイベントなどに参画していきたい。また、会員の高齢化でメンバーが少なくなってきました。関心のある方はぜひ参加していただきたいとのことでした。



30年近く活動を続け、年間30回以上の公演をこなす堺の老舗アマチュア人形劇団「シャボン玉」は、人形・大道具・小道具はもちろん、脚本や曲づくりもすべてメンバーの手づくりで取り組んでいます。糸や布を染めた人形の髪の毛や衣装、子どもたちの心に残る劇中歌、どれもこれもオリジナルのぬくもりがしっかりと伝わ

子どもたちにあふれる愛を届けたい

人形劇団シャボン玉

てきます。

ライブで演じる苦労は多く、特に夏の公演は黒子をかぶる頭や顔から汗が吹き出し、それが目の中に入ると大変!! 夢中で狭い「けこみ」の中を動き回る為、気が付けば手や足は青あざだらけ!! 枚挙にいとまがないそうです。

メンバーの高齢化にもめげず、週一回西図書館での練習は活気を帯び、入団7年目(それでも新人)の88才男性は休みなく参加され、最高齢92才女性は月に一度必ず元気な笑顔を見せに來られます。

—その原動力はひとえに子どもたちの笑顔—

子どもたちが無邪気に笑い、それを見つめる父母の何とも言えない柔和な笑顔に出会うたび、涙があふれそうになり、人形の持つ力にあらためて感動を覚えるそうです。

「子どもたちにあふれる愛を届けたい」を合言葉に頑張っておられ、昨今他のボランティアグループとのコラボにも精力的に取り組んでおられる、チームワーク抜群のグループでした。

手作りにやさしさをこめて配食

配食サービスボランティア「かけはし」

耳原老松診療所3階で配食のお弁当を作っているグループを訪問しました。食事の支度をするのが困難になってきた障がいのある方・高齢者などに、15年前から週2回の配食サービス(1食450円)を続けています。

調理は毎週月曜と水曜(祝日は除く)に50食~70食を7名(内男性2名)で担当しています。要望によって、きざみ食も作ります。衛生管理面には特に留意して、朝一番に調理器具すべてを煮沸消毒して、安心して弁当を食べてもらえるようにしています。

献立については毎月の献立表はなく、調理終了後にみんなで次回は何を提供すれば喜んでもらえるか、季節を感じてもらえるかなどと相談して決めています。

配達は、5人で1人当たり10軒程度を配ります。1時間半から2時間かかりますが、弁当を手渡すというだけでなく、異変を早期に発見して支援につながるように「見守りネット」活動もしています。

お盆期間は調理を休みますが、冷茶・温度計・注意喚

起メモなどを持参して、利用者を訪問して、熱中症・食中毒の予防等の健康管理面のサポートをします。

ボランティアに活動の動機を尋ねると、入院していたが全快して元気になったのでその感謝の気持ちを「手作り」という形で伝えたい、一人きりになった時に料理できるようになりたいたので勉強したいなど、さまざまです。

グループのチームワークが良く、みんな楽しみでやっておられ、この先もずっと続けたいと思いました。



グループは、江戸時代から現在に受け継がれている伝統産業「和泉木綿」と地場産業「泉州の綿織物」の文化・歴史・風習の伝承活動を平成8年から行っています。延べ2万人に体験学習を行っています。

活動の中心は小学校の3年生を対象に、なぜ大阪で繊維産業が盛んになったのかなどの歴史・文化を教えると共に、子どもたちと一緒に学校の菜園に5月頃に種を蒔



き10月頃に綿を摘んで、「綿繰機」で綿実を取り出し「糸車」で糸にする作業も指導しています。



コットンボール

池上曽根弥生学習館・錦織公園では親子での綿摘み・種取り・糸紡ぎの体験イベントもしています。一部幼稚園でも5~6年前から種取り・糸紡ぎの体験イベントをしています。

子どもたちが種を蒔いて育てた木から綿を取り出し、その綿で座布団を作成して、施設入所の高齢者にプレゼントして大変喜んでいただいたこともあったそうです。

堺東高校ではスタート時から伝承活動に理解をいただいています。堺学の授業で「堺発」の商品企画を行い「和泉木綿」の普及の手伝い、大魚夜市では浴衣等のファッションショーに出演などと、高校生のボランティアが泉州の綿織物の宣伝活動に協力をしているそうです。

昨年に続いて「綿を育ててみませんか」と10万粒の綿の種のプレゼントを今年も行います。来年にはさらに一歩進めて、皆で綿糸作りをして手織物の製品を作るといった夢を実現したいと話されていました。

和泉木綿の会

和泉木綿って

知っていますか